

仮定法に見る主体性育成の差

— 国語科と英語科のはざまで見つけたもの —

長倉 伸子

一 はじめに

現在勤務している高等学校において、国英双方の免許を取得している関係で、国語科から英語科に転任して授業している。この経験により、英語の授業では普通に行われている問いかけが、国語科では殆ど行われない発問であることに気付いた。それが何を意味するのか、ずっと気になっていたが、幾つかの事例にあたるうちに、日本の教育に要求され続けている主体性、積極性の育成に繋がるように思われ、今回ここに提示することにした。

二 学習指導要領や実践に見る日本の文学的文章の

「読み」の指導

『小学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説』では、文学的文章の「C読むこと」において、

オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

としており、「第1学年及び第2学年の内容」の「考えの形成」にこの項目オについて次のように記す。

「文章を読んで理解した内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことを示している。文章の内容と自分の体験とを結び付けるとは、文章の内容を、自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりすることである。また、感想をもつとは、文章の内容に対して児童一人一人が思いをもつことである。読み手の体験は一人一人異なることから、どのような体験と結び付けて読むかによって、感想も異なってくる。指導に当たっては、児童の発達や学習の状況に応じて、

文章との関連を考えながら、実際の経験を十分に想起できるよう工夫することが考えられる。」

更に、「第2節 第3学年及び第4学年」の同項目では、

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

とし、「考えの形成」の項目において、オについて

「第1学年及び第2学年のオを受けて、文章を読んで感想や考えをもつことを示している。第3学年及び第4学年においては、文章の内容だけではなく理解したことに基づいて、感想や考えをもつことに重点を置いている。(中略) 感想や考えをもつとは、文章を読んで理解したことについて、自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えを形成することである。ここには、疑問点や更に知りたい点などを見いだすことも含まれる。なお、感想や考えをもつことは、自分が文章をどのように捉え、理解したのかを改めて確かめることにもつながる。」

同「共有」では、

これらの感想や考えは、同じ文章を読んでも文章のどこに着目するか、どのような思考や感情、経験と結び付けて読むかによって、一人一人に違いが出てくる。これを共有し、一人一人の感じ方などには違いがあることに気付くとは、同じ文章を読んでも、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くとともに、互いの感じたことや考えたことを理解し、他者の感じ方などのよさに気付くことが大切である。」

(傍線は長倉が添付)

と記されている。では、「文章を読んで理解したことについて、自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えを形成する」読みが、現場でどのように問われているのだろうか。

日本の国語教育の発問例を見ると、その殆どが生徒たちが登場人物の立場に立って、あるいは成り代わってみて、その人物の心情を把握する、という方法をとっている(註1)。例えば、小学4年生の「ごんぎつね」の実践では、兵十が誤ってごんぎつねを撃ってしまった時の心情を、兵十のことばで表現し

てみる、または兵十そのものを演じて言葉が発して
みるロールプレイをおこなったりして、生徒に心情
把握をさせるものが殆どである。

また、過去に、拙者が生徒に対し、「あなたが〇〇（主
人公）だったらどう思いますか？」と発問した授業で、
生徒が答えられず沈黙してしまった経験がある。そ
の研究授業後、発問検討会で、次のような示唆を指
導教師の一人から頂いた。

『あなたが〇〇だったら』では、生徒は自分を登
場人物に重ねなければならぬので、とても意見が
出しづらい。「この時〇〇はどう思ったかな？」と発
問すれば、あくまでそれはその物語の場面内の出来
事で、生徒は自分の意見を自然に登場人物の心情に
投影して表現し易い。

その後、実際にその発問を他教室の授業で行うと、
生徒が設問に対しスムーズに反応することができた。

三、英語学習例文に見られる学習者の主体性

If I were a superman, I could help you.

（もし私がスーパーマンなら、あなたをたすけられ

るのに）（註2）

これは、仮定法の説明をする場合の典型的な例文
の一つである。仮定法は英語圏の国では日常生活で
も頻繁に使用される。

If I were you, I would go to the dentist.

（もし私があなただったら、歯医者に行くのに）

これは、拙者が親知らずを抜くのを逡巡した際の
米国の歯医者の言である。

If I were you...（もし、私があなただったら）

というこの文章を、先の兵十のくだりで使用する
としたら、

If you were Heijyu, what would you think?

ということになる。まさに「あなたが兵十だったら、
あなたは、どう思いますか？」という問にならざる
を得ない。尋ねられた相手は兵十に成り代わるので
はなく、この問に対する解答はもちろん

If I were Heijyu...

となり、おのずと自分(D)の意見を述べることとなる。

しかも、このような問は、Creative Thinking（創
造的思考）と呼ばれる、主に教育現場で使用される

問であるという。^(註3) 日常よく使われるものは、やはり

If I were ~ と「I (私)」を主語とした、自身の意見をダイレクトに求める文章であり、他人に成り代わって意見を言う習慣は極めて少ない、と言えそうだ。

四、まとめ

よく、英語圏(特に米国)では、幼少期からプレゼンテーションの練習をさせられるため、彼らは自分の意見を堂々と発表できるのだ、と言われる。確かに、当地の高校や大学ではデイベートやプレゼンテーションの練習を授業で行っている。最近日本の国語教育にも導入されている米国の幼稚園や小学校での Show and Tell (自分の好きな物紹介) のような教育現場での例もある。^(註4)

しかし、ここで触れたように、英語そのものの持つ性格により、意識せずに、通常、常に主語を明記しなければならぬ文法を持つ言語である英語を使用するが故に、生まれた時から日常的に己の意見を求められ

る環境が当地に存在すると言えるかもしれない。移民の多い国では、個人の意見をはっきり表明することが死活問題であることを考えると、それも当然であるようにも思われる。新しい指導要領では、「表現」が最初に掲げられ、文学作品の読解や鑑賞は最後のほうにあげられている。確かにグローバル化の進む社会では、相手に向かって、論理的に話ができる、自分の意見をはっきり言える生徒を育成することが急務なのかもしれないが、生まれつき自己主張の必要性がある文化を見習うために、そうではない文化に生きる私たちが指導の方法の舵を切って、生徒を自己主張できるように訓練し、自国文化を育んできた「文学を読むこと」を削ることで、何か大切な物を失うのではないかと懸念している。「文章を読んで理解したことについて、自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えを形成する」読みを生徒が行うために、日本人の文化を活かした自己表現ができる設問を編み出す必要性を切に感じている。

註1 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究

センター国語科 『指導と評価の「一体化」のための
学習評価に関する参考資料小学校国語』 事例4

「内容のまとめり 読んで感じたことや考えたこと
をまとめよう（こんぎつね）（第4学年）C 読
むこと 図4・児童1が感想を書くための言葉

を見つけようとしているワークシート」（令和2年
3月） pp.73

をはじめ、同様の発問は多くの実践例で散見され
る。

註2 綿貫 陽 『徹底例解ロイヤル英文法改訂新版』

2001年 pp.547

註3 Mustafa Senel i Gaziantep University

Development of Creative Thinking Skills of
Students Through Journal Writing

International Journal of Progressive Education,

Volume 15 Number 5, 2019

等の文献で Creative Thinking に ついて 検討され
ているが本稿でいう「成り代わり」の発問は見ら
れない。

本校 ALT Ms. Julie Waterman から同様の意
見を取材した。

註4

長倉伸子「買い物ごっこから経済学習へー米国メ
リーランド州公立小学校での実践からー」『国
語国文研究と教育』第四十七号（二〇〇九年）
pp.53

令和三年度卒業論文題目一覧(現代文化学部・文化言語学部)

熊本市の公立学校における

校歌の地理的・言語的特徴に関する研究

猪本 妃依

日韓のアイドル文化の特徴について

今里明日香

中高生の自己肯定感についての研究

岩田 真析

～日本と韓国を比較して～

ジャーニーズアイドルにおけるジェンダー観の分析

榎本 早姫

日本社会に韓流が起こした現象について

大橋 彩乃

日韓両国の食文化の比較研究

緒方 美桜

～韓国に進出した日本の外食産業を中心に～

日韓両国のブライダル文化について

梶原 瑠花

日韓両国の化粧文化に対する比較研究

門崎 香琳

コンテンツツーリズムを用いた地域再生の

可能性について～人吉を事例に～

桑 陽菜

市川春子作品におけるキャラクターのあり方について

小佐々柚希

菊池一族についての一考察

坂本咲野花

ウィズ・アフターコロナ時代におけるまちづくりについて

志賀綾寿香

夫婦別姓の議論に関する一考察

新塘 咲紀

～大学生における意識調査をもとに～

菅野 晴圭

競走馬のネーミングに見られる音象徴性

杉本 未来

中国語圏におけるジャーニーズアイドルの受容

～中国大陸と台湾を中心に～

高瀬美希子

日韓両国の女子大生のパーソナルスペースについての比較研究

～接点から見ると江戸川乱歩作品論

高見 真歩

日韓両国の民間美容についての比較研究

戦国武将キャラクターのファンコミュニケーションについて

遠山 悠里

松本隆の歌詞におけるジェンダー観

マンガを映像化した作品における

中山 美友

オノマトペの再現に関する研究

『魔進戦隊キラメイジャー』における

畑野 萌

女性キャラクターのジェンダー論的分析

日本と中国の観光政策と日中関係

深見 優香

近現代文学における女性表象

～女性作家と男性作家の相違～

本田 杼聖

明治期文学における青年像

～夏目漱石『三四郎』を中心に～

増田 聖

百人一首の一考察

20世紀前半における化粧の変容と女性表象について

村田 彩乃

演劇マンガにおける身体的表現と内面的表現の分析

山下 歩

山下 歩

山下 歩

村田 祥穂

村本 優紀

山下 歩

山下 歩

山下 歩

山下 歩

日本語と韓国語の漢字語の比較研究

渡邊 有美

ジェンダーギャップ指数の分析

宮崎 友理

ー日本と上位国の比較を中心にー

阿蘇地方の地域復興に関する研究

井本 佳那

ーオーデオ道場の焙煎珈琲を中心にー

※ 第十二回 尚綱大学文学賞は新型コロナ等の影響により、
文学賞自体しばらく中止の方向となりました。